

第2次海上の森保全活用計画の取組実績と評価及び課題

資料2

事業展開項目			内容（全体計画）	2016～2024 実績見込み	評価	課題
愛知万博記念の森としての保全	地域区分別整備	①施設ゾーン	景観の保全整備のための立木伐採等	・企業連携等による森林整備の実施 ・企業連携等による遊歩道整備 ・人材育成プログラム修了生による東屋建設活動（R4～） ・新規の遊歩道設置（R6）	・県や企業連携等により適切に森林整備、遊歩道整備を実施している	・物見の丘の塔からの眺望を妨げる樹木の高木化 ・イノシシによる遊歩道被害 ・物見の丘の塔や木造施設の老朽化
		②ふれあいの里	作業体験農地の耕地管理（毎年0.3～0.5ha）	・耕作実施面積 H28～R2 0.30ha以上 R3～R6 0.30ha未満	・R3年度以降は作業体験の耕作地面積が目標を下回っている	・海上の森の会の高齢化による作業能力の低下 ・イノシシ被害等による作業量の増加及び作業意欲の低下
			里山環境として保全する農地（農地として適正な維持管理）	・農地の管理、草刈 ・企業等連携による休耕地活用	・保全農地は企業連携等で活用されているものの、多くの未利用な場所が見られる	・海上の森の会会員の高齢化により農地の管理が負担となっている ・農地周辺をフェンスで囲っているもののイノシシによる被害が発生している ・山すその刈払い、電気柵の設置が必要 ・ため池の適切な管理 ・理想とする里山・農地のイメージの共有
			農地等周辺の間伐等	・海上の森の会による森林整備 ・企業連携による森林整備 ・湿地周辺の支障木伐採（H28）	・農地周辺の森林整備が進んでおらず光環境の改善が見られない	・海上の森の会会員の高齢化により活動内容が縮小している ・農地は周辺の樹木の高木化により日当たりが不良となっている
		③生態系保護区域	湿地周辺の立木伐採等	・名古屋大学・企業連携によるシデコブシ周辺の除間伐 ・企業連携・海上の森の会・名古屋工業大学による湿地の除伐や整備 ・屋戸湿地の歩道と柵の改修（R2）	・シデコブシ周辺の除間伐により光環境の改善が図られている ・屋戸湿地では湿地の環境整備とモニタリングが行われている	・屋戸湿地以外の湿地は樹林化が進んでいる箇所がみられる
		④恵みの森	人工林の整備（間伐対象林約30ha）（期間中に15ha実施）	・センター及び治山事業 本数調整伐 15.05ha	・期間中の目標値以上の整備が実施できた	・伐採木の搬出及び利活用 ・森林経営計画の策定と補助金を活用した森林整備 ・森林吸収系J-クレジットやクラウドファンディング、ふるさと納税など活用を検討 ・一般来訪者への森林整備の重要性のPRが不足
			複層林・針広混交林等への誘導（小面積皆伐等）、湿地周辺の立木伐採	・湿地周辺の除伐・林床整備（H29～R1）	・複層林・針広混合林等への誘導は、検討にとどまっている	・実施する事業等を整理する必要がある ・企業連携による森林整備の推進 ・小面積皆伐の実施に向けての小面積皆伐の有効性の検証
	⑤循環の森		人工林の整備（間伐対象林約50ha）（期間中に25ha実施）	・治山事業 本数調整伐 28.02ha ・企業等連携による間伐	・期間中の目標値以上の整備が実施できた	・伐採木の搬出及び利活用 ・森林経営計画の策定と補助金を活用した森林整備 ・森林吸収系J-クレジットやクラウドファンディング、ふるさと納税など活用を検討 ・一般来訪者への森林整備の重要性のPRが不足
			複層林・針広混交林等への誘導（小面積皆伐等）	・実施可能な事業を検討	・複層林・針広混合林等への誘導は、検討にとどまっている	・実施する事業等を整理する必要がある ・企業連携による森林整備の推進 ・小面積皆伐の実施に向けての小面積皆伐の有効性の検証
	⑥野鳥・古窯の森		大木の生育環境保全・生育不良木等の伐採	・生育不良木、危険木の伐採 ・管理道沿いの笹刈り	・広葉樹林は自然遷移に委ねている	・アカマツ林の広葉樹林化 ・枯松処理が進んでいない
自然環境の保全			県委託調査（ローテーションで実施）	・全体計画通りに調査を実施	・計画の調査項目は実施したものの、項目によっては調査内容を一部簡素化している	・年度によって調査項目の業務負担に差がみられる
			他調査（生物季節調査、モニタリングサイト1000等）との連携、専門家意見聴取・情報の収集・発信	・自主調査（希少動物、猛禽類調査）の実施 ・他調査（生物季節調査、モニタリングサイト1000）との連携 ・調査報告書の発行	・センターや海上の森の会等により継続的な調査を行い、情報発信ができている ・全国及び地域での自然環境や里山保全活動について、展示等による発信はできていない	・動植物の違法捕獲や盗掘がみられる ・違法捕獲や盗掘の抑止の強化 ・海上の森以外での自然環境や里山保全活動についての情報収集が必要 ・外来種の駆除 ・ギフチョウの生息環境の保全

第2次海上の森保全活用計画の取組実績と評価及び課題

資料2

事業展開項目		内容（全体計画）	2016～2024 実績見込み	評価	課題
森林や里山の学習と交流の拠点づくり	体験学習の実施	里と森の教室 毎年10回程度	・委託と海上の森の会自主活動により10回開催（H28～R1,R3） ・委託と海上の森の会自主活動により9回開催（R2,R4） ・委託により15回開催（R4～R6） 委託実績 93回2,884人	・目標値の年10回以上の開催はほぼ達成できた	・回数の増加による海上の森の会への負担増
		調査学習会 毎年3回程度	開催実績 H28～R2 11回217人 ・H28 4回、H29 3回、H30 2回、R1・R2 1回、R3～R6 0回	・開催回数が年々減少しR3年度から実施していない	・事業実施のための予算確保
		森の楽校 （森のがっこう） 毎年2回程度	開催実績 13回718人 ・2回（H28～R1） ・1回（R2～R6）	・R2から開催が1回となったが、ほぼ目標は達成している	・幼稚園児に比べ小学生の応募が少なめとなっている
		県民参加による森林環境教育プログラム （プログラムの開発・実施）	・グリーンウッドワーク講座（R4～R6） ・海上の森の会による自然ウォッチング、木工芸教室。四季のイベント ・NPOチームばんどりによる環境教育プログラム ・指導者養成講座（森の自然教育コース）修了生による自然教育プログラム	・各団体やアカデミー修了生による森林環境教育プログラムが実施された	・指導者の育成を行う必要がある ・各活動団体への協力や支援 ・団体の運営に係る事務等の負担
	人材の育成	あいち海上の森大学	・森の保育者養成講座（H28、29）25名 ・森の自然教育コース（H30～R6）61名 ・森女養成コース 84名 ・里山暮らしコース 90名 ・基礎講座（H28～H30）約188名 ・アドバンスクラス（R4） 8名 基礎講座（R1～R3）、森の自然教育コース（R2）は中止	・目的どおり森林・里山整備の指導者を育成するための研修を実施することができ、海上の森内外で活動する人材を育成できた ・アカデミー修了生が海上の森で活動できるサポート体制ができている	・修了生のスキルアップのための講習・支援 ・10年間の成果や課題の整理が必要 ・里山再生など海上の森に携わる人の養成
		人と自然の共生国際フォーラム	H28実施 ・特別講演、パネルディスカッション開催 ・活動発表会		
		シンポジウム等	・ミニセミナー開催（H28～R3）41回 ・NPO・グループ活動発表広場（R2～R6） ・NPO・活動グループ交流会（R5） ・モニタリングサイト1000里地調査 調査講習会。全国交流会（H30）	・ミニセミナーや活動グループの交流会などで人材の育成を行った	・海上の森で活動する人のミニセミナー企画が一巡し、新たな持込がない
		NPO法人海上の森の会等との協働体制づくり	・海上の森の会 体験学習教室及び耕地管理を委託、自主事業の支援 ・あいち海上の森交流会（旧あいち海上の森大学同窓会）の活動支援	・海上の森の会との協働体制はつくられている	・海上の森の会の会員の高齢化により活動能力の低下が問題となっている ・山口地区の季節の文化や伝承を受け継いでもらう人の養成 ・地元住民の参加を増やす取組み
	普及・情報発信	インターネット始めSNSの活用、海上の森調査報告書、ムーアカデミー情報誌発行等	・Facebook、X、Youtubeなどでの情報発信 ・ムーアカデミー通信発行 年2～4回 ・「自然観察ガイドブック」等の有償頒布 ・調査報告書の発行	・SNSやムーアカデミー通信等により様々な情報提供を県内外に発信できている	・新規の海上の森来訪者を得るための情報発信方法 ・地元住民の参加を増やす取組み ・来訪者ニーズ等の把握・分析
		モデル事例提供・NPO交流拠点・ネットワーク形成	・あいち自然環境団体・施設連絡協議会に参加（H28～H30） ・「NPO・グループ活動発表ひろば」の開催（R1～R6）	・R1から情報交換の場をつくりネットワークづくりが図られた ・森林整備や里山整備の実践モデルを設定・検証して情報提供できなかった	・各団体・企業とのネットワークづくりの拡大

第2次海上の森保全活用計画の取組実績と評価及び課題

資料2

事業展開項目	内容（全体計画）	2016～2024 実績見込み	評価	課題
施設整備と運営	本館・遊歩施設・里山サテライト・案内看板、トイレ、駐車場等	・本館2階ウッドデッキ屋根設置（H28） ・幼児体験フィールド入口改良工事（H28） ・遊歩施設（遊歩道）新設（R6） ・展示物の更新 ・施設修繕（本館、ウッドデッキ、物見の丘の塔、エコトイレなど）	・施設修繕は適切に実施しているものの、修繕に数年の時間を要している場合がある	・施設（木造施設、建物、空調等）の経年による一部老朽化も見られる ・里山サテライトのトイレは故障が続き、使えない期間が長期間続いている
協働・連携の推進	県民参加組織（NPO法人海上の森の会、あいち自然ネット等）	連携組織 ・海上の森の会 ・あいち自然環境団体・施設連絡協議会（あいち自然ネット） ・あいち海上の森交流会（海上の森大学同窓会） ・よりあい工房ぱんどり ・山の会くらら ・みのむしックス ・ヤマとナデシコ ・コウモリ調査隊 ・グリーンウッドワーク海上の森	・海上の森の会を始め多くの団体と連携・協調して活動し、協働体制の充実、拡大ができた ・海上の森アカデミー修了生による活動ができた	・それぞれの活動団体が連携できる関係づくり ・展示物の更新 ・各団体の事務や予算などの運営
	地元地域	・せと環境塾の事業への協力 ・山口地区の水路清掃・草刈に参加 ・湿地サミットへの協力（R5） ・山口地区へのイベントチラシ等配布（H28～R4） ・瀬戸市内自治会へのイベントチラシ配布（R5,6）	・せと環境塾や地域の活動と連携し、活動することができた ・イベントチラシの配布により瀬戸市内の参加者は多い傾向にある	・地域の環境保全活動との連携と情報交換 ・山口地区の季節の文化や伝承を伝える人材 ・地元住民のイベント参加を増やす取組み ・市道の補修など市との連携
	小中高等学校・大学	・学外講義・野外学習 名古屋大学、名古屋工業大学、愛知工業大学、南山大学、名古屋産業大学、東邦大学、東京大学、札幌市立大学、聖霊学園中高、幡山中学校、幡山東小学校、南山大学附属小学校、道泉小学校、萩山小学校 ・出前講座 瀬戸西高校 ・調査、研究協力 名古屋大学、名古屋工業大学、愛知工業大学、愛知学院大学、南山大学、名古屋産業大学、人間環境大学、岐阜大学	・多くの小中高等学校・大学の学習の場となっており、教育機関との連携を図っている	・研修室等のキャパシティにより受け入れできる人数に制限がある ・瀬戸市外の小中学校からの来訪が少ない
	関連施設等	環境学習スタンプラリーの協力	・愛知県環境学習施設等連絡協議会（AELネット）に参加し、関連施設や関係団体との連携やネットワークづくりを図っている	・類似施設や近隣施設との連携や情報交換が課題となっている
	企業連携	・覚書締結 11者、活動面積 6.78ha ・活動内容 森林整備活動 9者 施設整備 2者 耕作地利用 4者 清掃活動 1者	・7社の企業がCSR活動の取組のひとつとして保全活動を実施している ・休耕地の活用により里地景観の改善がなされている	・連携先によって活動頻度や意欲に差がみられる ・簡易な森林整備を依頼しているが、活動場所は高齢林が多く活動内容を検討し軽作業にする必要がある ・高度な伐採技術を要する際の林業経営体等との連携体制
	海上の森サポーター	・サポーター数 37名 鳥類・キノコ類に関する情報提供	・サポーターの自主活動による情報提供は貴重な資料となっている ・センターからの依頼による活動は数年実施していない	・環境整備やプログラムの活動補助等は連携する企業・団体やプログラム修了生により実施されている